



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

令和3年11月19日

市長記者会見資料

令和3年度「かわさきマイスター」を認定しました

「かわさきマイスター」については、今年度、15名の応募があり、かわさきマイスター選考委員会での審議の結果を踏まえ、新たに5名を認定しました。

「かわさきマイスター」は、極めて優れた技術・技能で本市産業の発展や市民の生活の向上に御尽力いただいているとともに、後継者や若手の指導にも熱心な現役の職人の方々に市内最高峰の匠として贈る称号です。本事業は平成9年度から開始しています。

* マイスターとは、ドイツ語で「名人」「親方」を意味します。

1 令和3年度かわさきマイスター認定者

- (1) ^{あやべ}綾部 ^{じゅん}淳 氏 (塗装)
- (2) ^{あんどう}安藤 ^{たけし}健 氏 (タイル・煉瓦工事)
- (3) ^{つばい}坪井 ^{さちこ}幸子 氏 (写真師)
- (4) ^{ののかわ}野々川 ^{まさみ}晶三 氏 (金型製作)
- (5) ^{わたなべ}渡部 ^{あきら}玲 氏 (製缶・溶接・組立)

※今年度認定者の方々を加え、これまでに76職種114名の方々が認定者となります。

「タイル・煉瓦工事」は建築関係の分野で初めて認定になる職種です。

2 配付資料

- (1) 令和3年度かわさきマイスター認定者 資料1
- (2) 令和3年度かわさきマイスター認定者技能紹介 資料2

【問合せ先】

川崎市経済労働局 労働雇用部 佐藤
電 話 044-200-2278
FAX 044-200-3598
E-mail 28roudou@city.kawasaki.jp

令和 3 年度かわさきマイスター認定者

氏 名	年 齢	職 種	従 事 年 数	勤 務 先 ・ 役 職
あやべ じゅん 綾部 淳	4 8	塗 装	2 5	株式会社丸紘 塗装工事部 職長
あんどう たけし 安藤 健	6 3	タイル・ 煉瓦工事	4 4	株式会社アンドー 代表取締役
つばい さちこ 坪井 幸子	7 3	写 真 師	5 4	有限会社三陽会館 取締役
の の か わ ま さ み 野々川 晶三	5 9	金 型 製 作	3 8	株式会社長津製作所 本社工場 工場長
わたなべ あきら 渡部 玲	6 5	製 缶 ・ 溶 接 ・ 組 立	4 9	株式会社仙崎鐵工所 製造部 グループ長

※ 年齢及び従事年数は令和 3 年 1 1 月 1 9 日時点を基準としています。

綾部 淳 (あやべ じゅん) さん

- (1) 年 齢：48歳
- (2) 職 種：塗装
- (3) 従事年数：25年
- (4) 勤 務 先：株式会社丸紘



綾部さんは、テクスチャーペイントと呼ばれる一般の塗料だけではなく左官材料などの仕上材、また通常の建築工事では使わない材料も使って、様々な質感や情景を表現する技能者です。

綾部さんは22歳の時から本格的に建築塗装の仕事に携わり技能を習得するうちに、ヨーロッパの塗装材料と技能を知りました。日本にはなかったこの特殊な塗装に魅せられた綾部さんは多くの現場を経験しながら工夫を重ね技能を高めていきました。個人事業主として独立した後も研鑽に励み、その高い技術が評価され、株式会社丸紘に入社後は、寺院やホテル、商業ビル、店舗等多様な現場での施工を通じ技術力、発想力を更に磨きました。

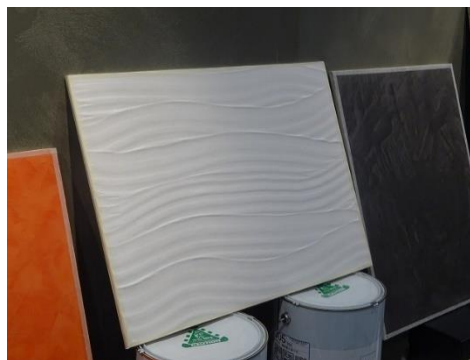
綾部さんの施すテクスチャーペイントは、鏝（こて）やへら、刷毛、スポンジ、パターンローラーなど、様々な道具を使う事で表現の幅をより広げ、材料に色砂、ガラス、パール粉、貝殻など色々な装飾材を加えることにより、大理石調やレンガ調、年季の入った錆風塗装、宇宙空間等々、施主や設計者が求める様々な質感を表現していきます。波間の水の輝きといった情景的なものを表現することもあります。施主や設計者が抱くイメージを、材料や技法に対する柔軟な発想で再現していきます。これまで多くの高級ブランド店や高級住宅の内外装の仕事に携わり、その技能は「丸紘の綾部にしか頼めない仕事」と言われるほどに高い評価を得ています。

これまで塗装業界のなかでもテクスチャーペイントの技法を知る技能者や会社は少なく、門外不出とする雰囲気もありました。しかし、丸紘ではこの技法を一般にも広く紹介しています。

現在、綾部さんは今年入社した女性職員の指導をはじめとして、10名程の職人の育成も担っており、日常の技術指導はもちろんのこと、他現場で施工する若手技能者から助言を求められた際は、動画でアドバイスを行うなど、丁寧な指導を行っています。また、小中学生の職業体験の受入れも行っており、塗装の楽しさや奥深さを伝えています。



鏝（こて）やへらでの塗装



様々な模様の塗装

《株式会社丸紘》 川崎市高津区新作6-2-61

電話 044-863-2167

FAX 044-863-2168

安藤 健（あんど う たけし）さん

- (1) 年 齢：63歳
- (2) 職 種：タイル・煉瓦工事
- (3) 従事年数：44年
- (4) 勤 務 先：株式会社アンドータイル



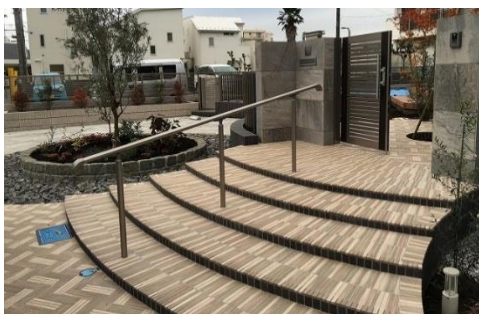
安藤さんは、44年にわたりタイル工事に携わってきました。理想のタイル工事を目指して、外構工事全般を設計施工することができる技能者です。

安藤さんは祖父の代から続く家業のタイル工事の仕事に就きました。見習いを経て新築工事の外壁のタイル張りも任されるようになりましたが、その一方で剥落したタイルの補修なども多く手掛けました。ただ、この経験が技能を高める契機になりました。安藤さんはタイルの剥落、タイル面の仕上がりが悪くなる原因などを探り、その改善に努めて腕を上げていきました。剥落を最小限に止め、凸凹がなく、目地の通ったタイル面の仕上がりに専念してきました。

建築工事を担う技能は多種多様であり、分業化しています。例えば、タイルの下地になる左官工事やブロック工事はそれぞれ専門の職種の技能者が施工します。下地の良し悪しはタイル工事の精度に影響しますが、タイル工が下地をつくることはできません。そのため、理想のタイル工事を目指す安藤さんは、左官やブロック積、また土工事や鉄筋工事などタイルの下地づくりに関わる技能を習得し、住宅などの外構工事の設計施工一式を請負うようにもなりました。安藤さんは人の移動を安全でスムーズにするため階段の踏面や土留めなどの形状に曲線を多用します。この曲線形状に目地の通った美しいタイルの仕上がりを実現するためにタイル斬りや目地、下地づくりにも工夫を凝らします。また、開放性と敷地内外の境界性を両立する門扉や塀の配置、外灯の照明方法などにも配慮したデザインを提案しています。

安藤さんのこのような仕事はテレビや書籍などに取り上げられています。最近ではモザイク作家などがデザインした壁や床面、オブジェなどへのタイル張りや、ホテルの内装のプランニングを手掛けるなど、活動の幅を拡げています。

技能の継承や普及の活動にも熱心に携わり、これまでに多くの職人が株式会社アンドータイルから独立しています。「川崎市タイル煉瓦工事工業組合」の前組合長として、川崎市技能職団体連絡協議会により市内中学校向けに実施している職業体験授業「技能職者に学ぶ」にも積極的に参加し、将来の職業選択の一つとして技能を体験してもらう取組を行ってきました。また、現場で実際に施工する技術、工程を用いた本格的なタイル教室を開催するなど、タイルの良さを広く伝えています。



曲線を多用したデザイン



施工した邸宅の外構

《株式会社アンドータイル》 川崎市麻生区上麻生6-22-10

電話 044-988-1510

FAX 044-988-3032

坪井 幸子（つばい さちこ）さん

- (1) 年 齢：73歳
- (2) 職 種：写真師
- (3) 従事年数：54年
- (4) 勤 務 先：有限会社三陽会館



坪井さんは写真師としての技能はもとより、スポッティングと呼ばれる写真の修復、修正技術に優れた数少ない技能者です。

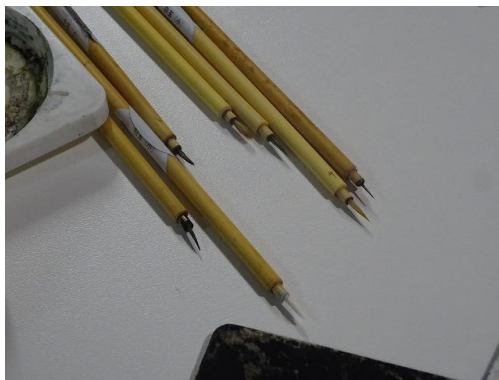
坪井さんは家業が写真館であったこともあり、東京工芸短期大学（現 東京工芸大学）で写真を勉強し、卒業後に写真師としての仕事を始めます。写真修正の仕事も写真師の仕事の一つとして手掛けるようになりました。写真修正は乾板写真の頃からあったといわれ、顔をきれいにしたりピント合わせやネガに付いた埃が焼き付けられた部分を修正するため、記念写真やポートレート写真を撮る写真師には不可欠な技能です。銀塩写真の時代はネガフィルムに鉛筆で修正したい部分を描き入れ、印画紙に焼き付けした後に写真に絵具で修正部分を描き起こす、という方法がとられていました。スポッティングは印画紙に焼き付けした写真を修正する作業の技法で、絵を描くように修正していきます。坪井さんは、スポッティングを試行錯誤しながら深めていくことで独自の技法を確立していきました。

昭和47（1972）年に父親が営む有限会社三陽会館に入ります。婚礼をはじめとした記念写真やポートレート写真撮影の仕事を幅広く受ける一方、坪井さんの技を頼って写真修正の依頼も多く舞い込むようになりました。近年の写真修正はパソコン上で画像データを修正することが多くなりましたが、限界があり、プリントされた写真をスポッティングで修正が必要になる場合も多くあります。例えば、遺影用に古い写真やピントが甘い写真を修復する場合、画像データに変換してもピントの合ったはっきりした写真に修復することが難しい場合が多くあります。このようなとき、スポッティングによって目、鼻、歯、衣服の輪郭などを描き起こして、その方の面影を再現します。

今では入手できなくなったアメリカ製の塗料を用いていた修正も、研究を重ね、入手しやすい画材を用いて作業ができるようになるなど、スポッティングの技法を存続させることができるようになったことから、現在は、自身で修復、修正の作業を行いつつ、写真館を継いでいる娘夫婦にスポッティングの技術を伝えています。また、同業の写真師に対する振袖や和装婚礼のポーズの指導にも勤しんでいます。



スポッティングによる修復の様子



スポッティングに用いる筆

《有限会社三陽会館》 川崎市川崎区宮本町7-1

電話 044-222-4473

FAX 044-222-4031

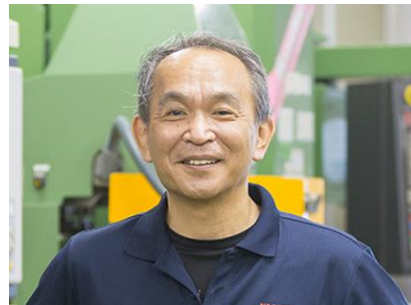
野々川 晶三 (ののかわ まさみ) さん

(5) 年 齢 : 59 歳

(6) 職 種 : 金型製作

(7) 従事年数 : 38 年

(8) 勤 務 先 : 株式会社長津製作所



野々川さんは、デジタルカメラやプロジェクター等の光学製品用プラスチック精密金型の製作技能を高い水準で持つ技能者です。

株式会社長津製作所に入社後、加工、設計、組立等、金型製作に関わる多様な工程を担当し、それぞれの現場で、ものづくりに対する強い興味とこだわりをもって、感覚による職人的な側面と理論・数値で捉えてゆく技術者の側面を両立させた総合的な技能を身に付けました。その後、同社の中国での金型工場の立ち上げにより6年半の間、中国での勤務を経験し、現在は本社工場長として作業管理、工場運営を行う傍ら、多数の機械設備の個々の操作にも通じ、かつ微細な仕上げ技術を用いて高精度な金型を製作しています。

精密金型の製作には、金型の構造、機構等の設計思想、加工工程で必要となる精度や材料の特性についての深い知識に加え、組立・TRY を繰り返しながら微細な修正を行うための測定、評価、更には、ミクロンレベルでの調整を行う技能が必要とされます。更に野々川さんは超精密なレーザー溶接技術を活かし、望遠レンズのプラスチック金型に鋭いエッジ部分に肉盛りし、微細な磨きを施し成型する技能を使い、時間の経過に従って微妙に変化する視覚による情報だけに頼らず、指先の感覚や、作業で生じる音を聞き分ける研ぎ澄まされた感覚を用いて製作に携わっています。また、CAD/CAMの設計評価とNC工作機械・マシニングセンターなどの操作、3次元高精度測定器等の各種の測定機器による計測評価を行うなど、金型製作全体の技術に精通しています。

技術の普及、振興については職業能力開発促進センター（ポリテクセンター）の講師を務めるとともに、社内では、「部下の成長が自分のモチベーションアップである」ことを自身の姿勢として後進の育成に取り組んでいます。それぞれの個性を見ながら、ティーチング法とコーチング法を組み合わせて、まずは部下に考えさせ、やらせてみた上でヒント、アドバイスを与えて自分自身で成長できる技術力・問題解決力を身につけさせる指導を基本としながら、時には現場で一緒になって金型製作に取り組んでいます。



内側スライド方式



金型製作の様子

《株式会社長津製作所》 川崎市中原区中丸子57

電話

044-433-8371

FAX

044-433-8374

渡部 玲（わたなべ あきら）さん

- (1) 年 齢：65歳
- (2) 職 種：製缶・溶接・組立
- (3) 従事年数：49年
- (4) 勤 務 先：株式会社仙崎鐵工所



渡部さんは、製缶作業全般における優れた溶接技能を持つ技能者です。

製缶作業全般にわたり優れた技能を発揮していますが、特に溶接の技術に秀でており、JIS ステンレス溶接、JIS チタン溶接の資格を持ち、溶接する素材は様々な種類の金属に及びます。電極棒に消耗しないタングステンを用いたアーク溶接の一種である TIG 溶接において、均一な送り速度による仕上げの美しさから顧客からの高評価を得ています。この均一な速度で行う送り技術を、渡部さんはお箸を使った練習を日々行うことで習得しました。

また、渡部さん以外では手掛けられない技術に、電磁流量計のコイル製作があります。様々な流体をパイプ内に流すに当たり、流量計を付着して計測するシステムがあります。その流量計による計測を行うためには、最小径 500 ミリ、最大径 2,200 ミリのコイルを流量計に取り付ける必要があります。コイルを作るには、銅線が断線しないように張り具合を調整しながら治具を回転させ、手作業でコイル状に巻くことでコイルが仕上がります。

巻きあがったコイルに絶縁材を上塗りした後、流量計の筒状の形態に沿わせるように曲げる作業を行い、電磁流量計にコイルを取り付け、正常に作動しているかをチェックします。

元々コイル製作は、電磁流量計の元請け会社が行っていましたが、コイル製作には高い技術が必要で、電磁流量計の筐体製作をしていた渡部さんの持つ技術と勤勉な性格が高く評価され、元請け会社からコイル製作の技術の継承を受け、現在では筐体製作と併せて、コイル製作も任せられるようになりました。

渡部さんの手掛けた製品は、現在のインフラに欠かせないものが多く、上下水道、電力、橋梁・景観、宇宙、船舶関係と、非常に多岐にわたっています。また、作業の安全性の向上や効率化を図るため、独自のアイデアや工夫を凝らして自ら製作した必要な治具や装置などが、工場内のあちらこちらに見受けられます。

現在、渡部さんは若手の職人と一緒に作業をしながら、やり直しがきかない作業に取り組む自身の仕事に対する姿勢を見せるなど、熱心な指導を行い、後継者の育成に努めています。



溶接の様子



コイル製作の様子

《株式会社仙崎鐵工所》 川崎市川崎区小田5-17-5

電話 044-333-4434

FAX 044-355-8193